

(2) 自然とのふれあいを大切にするまち

緑、水辺、動植物等の自然環境は、人々にうるおいやすらぎを与えてくれるだけでなく、地下水の涵養、ヒートアイランド現象等の都市気候への影響、地球温暖化の緩和、大気の浄化、人と自然との関わりやその大切さを学ぶ環境学習機能等、多様な働きを持っています。

本市では、これらの自然環境が都市化の進展により減少・劣化していますが、南部丘陵や古墳群、農地等のまとまりのある緑、海やため池、河川の水辺が残され、昆虫、鳥等の多様な生き物が生息しています。これらの自然環境を、人と自然との共生を図るよう適正に保全、回復、創出を図るとともに、これをまちや生活に取り込んでいくことを基本として施策を進めます。

① 緑とのふれあい

都市公園や緑地の体系的な整備、公共空間の積極的な緑化に努め、市民や事業者に対する緑化の支援及び緑化意識の高揚を図ります。

また、緑の保全・創出を図るため、平成22年9月に施行した「堺市緑の保全と創出に関する条例」の基本理念に基づき、市民・事業者・行政の協働により施策を推進します。

◆南部丘陵の樹林地の保全と活用

多様な生き物の生息空間を保全するとともに、市民の自然系レクリエーションや環境教育の場として平成18年4月に開園した「堺自然ふれあいの森」では、「NPO法人いっちゃんクラブ」と協働して、里山保全の様々なイベントや樹林管理を行っています。



堺自然ふれあいの森 自然観察会の様子

◆共生の森・SAKAI クールダムの推進

臨海部における緑の拠点整備（クールダム）事業を推進するため、大阪府が進める共生の森づくりに参画し、平成21年11月、約5haの区域に市民、NPO、企業等約2,000人の参加により、約1万本の苗木を植樹しました。

その後、毎年定期的に苗木の下草刈りや共生の森をフィールドとした野鳥観察会等の環境学習会を実施しています。



共生の森 下草刈りの風景（平成22年）



共生の森 成長した樹木の様子（平成24年）

②水辺とのふれあい

臨海部については、生物が生息しやすく、市民が海辺と親しめるような海辺環境の整備・創造に努めます。

河川やため池については、水質の改善や生態系の確保に努め、これらを活用し、親水公園など身近に親しめる水辺空間として整備を図っていきます。

◆臨海部の親水空間としての整備の取組み <堺臨海部再生・創造ビジョン>

堺旧港では高潮に備えるとともに、海の見える快適な水辺空間の形成を図るため、大阪府による親水性階段式護岸の整備が進められています。周辺においては、旧堺燈台周辺緑地・大浜公園・親水護岸を周遊できる海辺空間を活かしたまちの魅力向上を図ります。

堺浜では、北泊地において、大阪府による人工干潟整備のほか、海辺の自然環境再生の実験の場として砂浜を造成し、生物調査や水質調査を継続的に実施しています。また、海や生き物との触れ合いや環境学習を通じて、豊かな感性と情操を育み、次世代を担う子どもの健全な育成に貢献していきます。

◆仁徳陵・内川水環境再生プラン

「仁徳陵・内川水環境再生プラン」に基づいて、仁徳天皇陵古墳の水面維持用水として芦ヶ池から地下水を仁徳天皇陵古墳へ導水しています。

また、平成20年度から土居川の抜本的な水質改善のための海水導水事業に着手し、平成23年4月に導水を開始しました。



芦ヶ池水路（堺高等学校前）

・土居川海水導水事業



1. 事業目的・概要

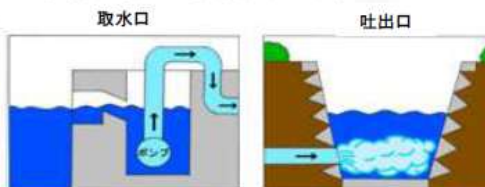
土居川において恵み豊かな水環境をめざし、透明感があり魚の棲める水質レベルにするために、出島漁港より海水を導入します。

2. 事業内容 [平成20～22年度施工]

- ・ 出島漁港より土居川の中・上流域2箇所に導入
- ・ 導入量：12,000t/日
- ・ 延長：1700m(ダクタイル管φ250～350mm)

3. 事業効果

- ・ 土居川に海水を導入することにより、川の低層の溶存酸素量が多くなり、白濁化、黒濁化、悪臭の発生が低減・解消します。
- ・ 多様な生物が生息可能となります。



◆ため池の保全と活用

平成17年度から、ため池がつくる環境や機能を将来に向かって保全・活用しようとする地域団体の自主的な活動を支援するため、親水コミュニティ活動支援事業を行っています。



中區上之(午池)

③生き物とのふれあい

◆堺市レッドリスト

市域の南部丘陵地等、自然が多く残されている地域には、未だ多様な野生生物が生息しており、学術上貴重な種も確認されています。本市では、堺に生息・生育する野生動植物の現状を知ってもらい、自然環境の保全や野生生物の保護に役立ててもらえるよう、平成19年度に本市の貴重な動植物のリストである「堺市レッドリスト」を作成しました。



堺に生息・生育する野生動植物約4,600種のデータを基に、動物277種、植物297種の合計574種、要注目植物群落6単位を堺市レッドリストとして選定しています。また、平成21年4月には、堺市レッドリストを基に、生物多様性の重要性や本市における貴重な生き物、身近な自然環境を紹介する「ガイドブック」を発行し、環境教育の教材や市民活動の資料として活用しています。



堺市レッドリスト
ガイドブック

◆河川水生生物調査

本市では平成5年度から概ね5年ごとに石津川水系における河川環境の保全及び再生に向けた施策の一環として、河川に生息する魚類や水生昆虫等の調査を行っています。平成21年度は、その調査年度にあたり、本調査（春季及び秋季）を実施しました。魚類の年間確認種数は13種（平成5年度）、14種（平成11年度）、23種（平成16年度）、24種（平成21年度）と調査毎に増加しています。

<平成21年度>

分類	確認種数	確認種	特定種
魚類	7目12科24種	ウナギ、コイ、ゲンゴロウ、ナギンボ、オカワ、カマツ、ヌマツ、モツゴ、ドジョウ、ナズ、アユ、カダヤシ、メダカ、オクチハス、ブルギル、ボラ、メダ、ドンコ、カアナゴ、ウキゴリ、マゼ、ゴクラカヘ、トウヨシボリ、カヨシボリ	ウナギ、ヌマツ、ドジョウ、ナズ、アユ、メダカ、ドンコ、カアナゴ、ウキゴリ、ゴクラカヘ

特定種：環境省、大阪府発行のレッドデータブック又は堺市レッドリストに掲載されている種で、貴重性等から見て注目に値する種

◆周辺海域水生生物調査

本市では、平成16年度から5年ごとに、本市周辺海域の自然環境の保全・再生に向けた施策の一環として、海に生息する魚類や底生生物等の調査を行っています。

平成21年度は、その調査年度にあたり、本調査を実施しました。漁業生物の年間確認種数は、15種（平成16年度）、13種（平成21年度）となっています。

<平成21年度>

分類	確認種数	主な確認種
魚类等 (漁業生物)	(魚類) 10種 (甲殻類) 3種	(魚類) クロダイ、コノシロ、カクチイワシ、マイワシ、サッパ、マヅ、シロギチ、ボウ、アカマス、マルヅ (甲殻類) イシガニ、タイワンガザミ、ガザミ